

I. 野島水路の説明

1.本日のテーマ

何故野島水路で調査をはじめたか？

——野島水路のシギ・チドリの危機——

2.私のフィールド・・・野島水路

野島公園

横浜市金沢区野島町



3.本日説明したいこと

1. 何故調査を始めたか
2. 調査のデータベース化？
3. 調査で気がついた点
4. 調査と現実との差
5. 目的は達成できるのか？

4.野島水路の説明

1)南側 野島干潟の一部分

野島水路の干潟(中央から南側を望む)

巾 約60-120m X 長さ約500m

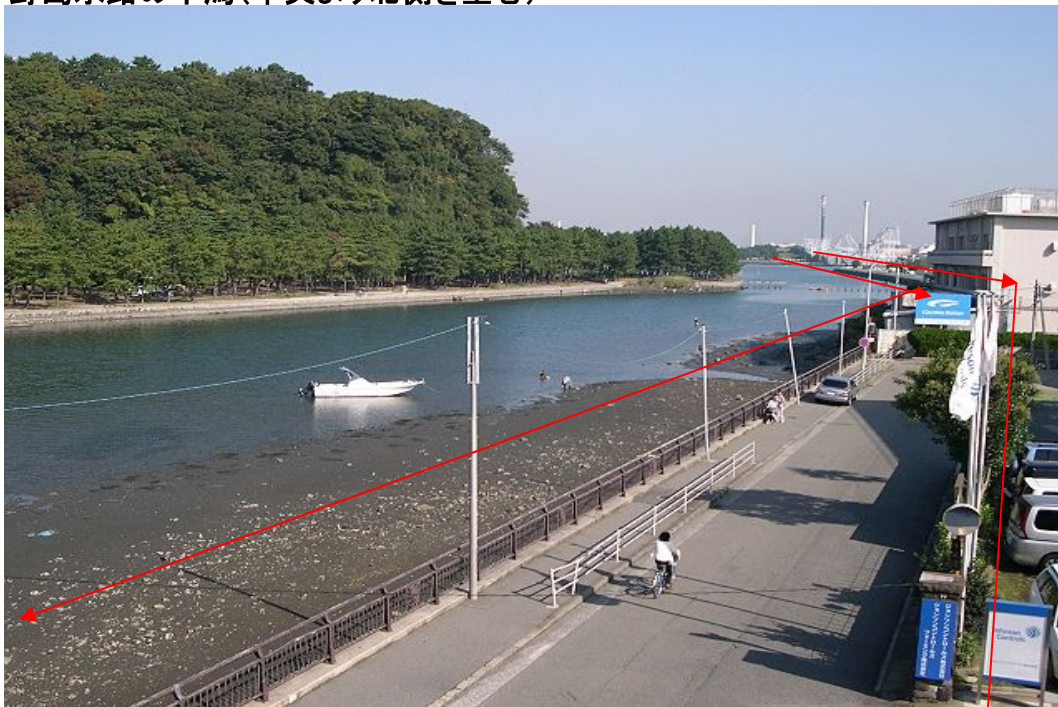


2)北側 野島干潟の一部分

道路建設予定地

道路建設範囲

野島水路の干潟(中央より北側を望む)



5. 干潟のシギ・チドリ

1) 採食場所

干潟に降りた**ハマシギ**と**メダイチドリ**

ハマシギ＝お腹が黒い

メダイチドリ＝目に隈取・胸がオレンジ色



2) 休憩場所

貴重な休憩所

数えられるだけで**キアシシギ**が36羽



Ⅱ. 道路計画

1. 野島水路の危機

1) タウン誌の報道 国道357号建設計画

野島干潟の危機

2008年10月16日号

Area Info エリア情報

金沢区版 トップ記事

金沢区版一覧へ戻る

八景島－夏島町間 整備実現へ

国道357号線延伸で野島水路の干潟が存亡の危機



千葉市から横須賀市に至る国道357号線(延長87.4km)の八景島－横須賀市夏島町間の延長計画が、実現に向けて動き出した。国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所によると、具体的なスケジュールは未定だが、関係機関との調整の上、計画を進めていきたいとしている。



国道357号線の八景島から横須賀市夏島町までの未整備区間は、昭和63年に都市計画決定がなされたまま、今にいたるまで凍結状態にあった。現在、横浜市から三浦半島へ南北へ伸びる広域的・基幹的な一般道路は、国道16号線があるのみ。横須賀市は慢性的な渋滞緩和や産業の活性化のため、国道357号線の南下延伸の実現について、国土交通省ほか関係機関に要望を繰り返してきた。

20年前の計画では、左上の図のように八景島から橋脚で湾をまたぎ、野島水路の上を通過して横須賀市に抜けることになる。同横浜国道事務所は「都市計画決定から20年経っているので、周辺の状況も変わってきている。ルートなどの計画変更はないが、十分に調査をした上で橋脚を減らすなど周辺環境に配慮して設計にあたりたい」としている。

計画の再検討求める声も

計画通りにことが進めば、幅22mの道路が覆う形になる野島水路は、干潮時には干潟が現れる場所。干潟は光合成で活性化した植物プランクトンが多く生息し、豊かな生態系を形成しているほか、水質浄化作用もある。

海の公園や野島でアマモ(海草)の藻場造成や清掃などの活動を行っている「海をつくる会」の坂本昭夫さんは、「野島水路にはアサリやカキなどが多く生息している。もし道路が影をつくり干潟をふさいでしまったら、これらの生物は死滅してしまう」と警鐘を鳴らす。また、周辺の金沢漁港や海の公園、海苔の養殖業者などへの影響も懸念される。「私たちは計画の中止を訴えているわけではない。計画の再度見直しを検討してもらうため、活動していきたい」と話している。

2) 概略地図 野島公園周辺

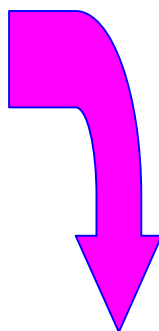


国道357号建設計画

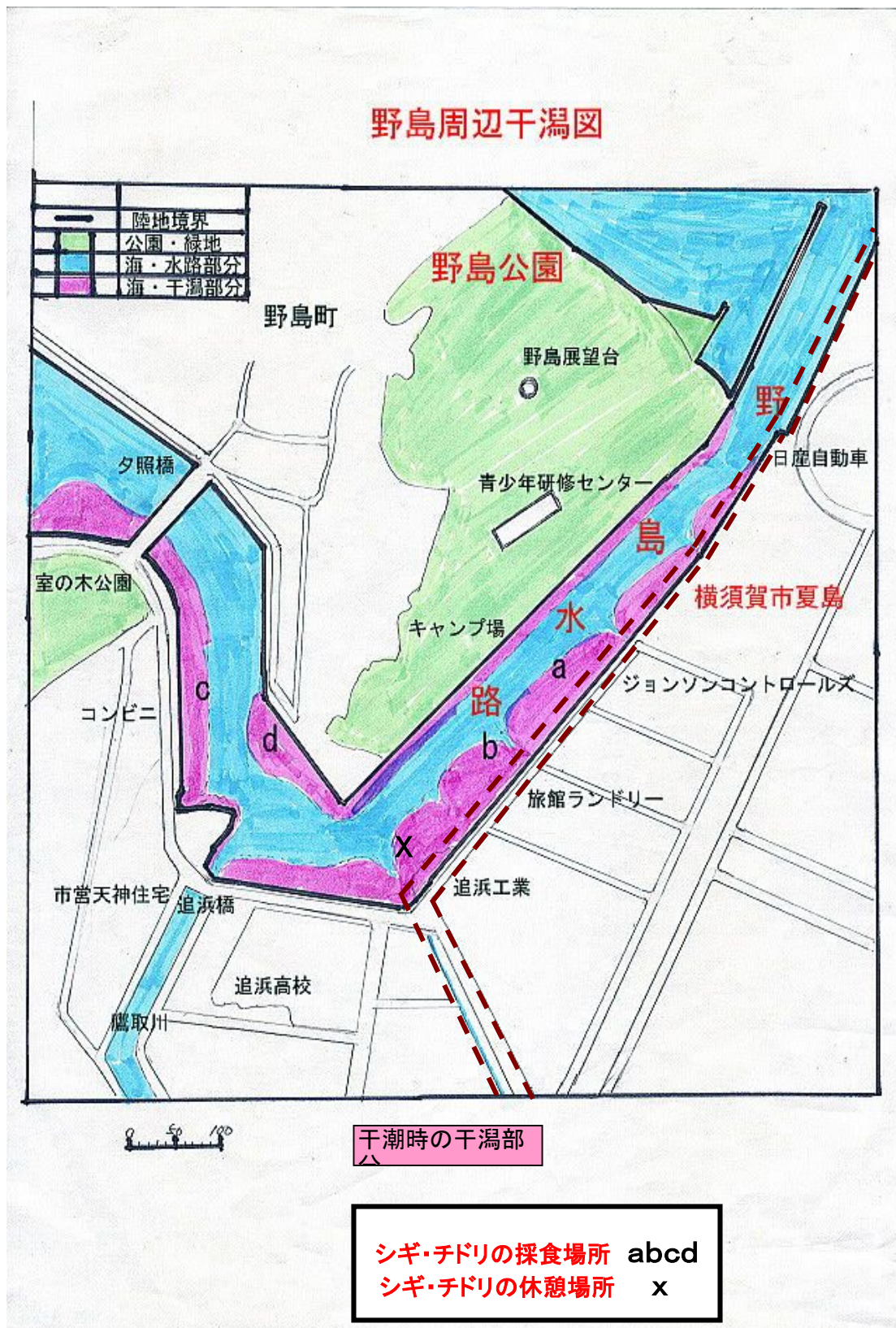
国道357号八景島夏島間建設計画



八景島から野島水路の間は
22m巾の高架道路が建設される。



2. シギ・チドリの餌場と休憩場所 野島水路の餌場の干潟と休憩場所



3. 道路の構造・形状

道路形状

地上高6m・道路巾22mの高架道路(横浜国道事務所資料より作成)

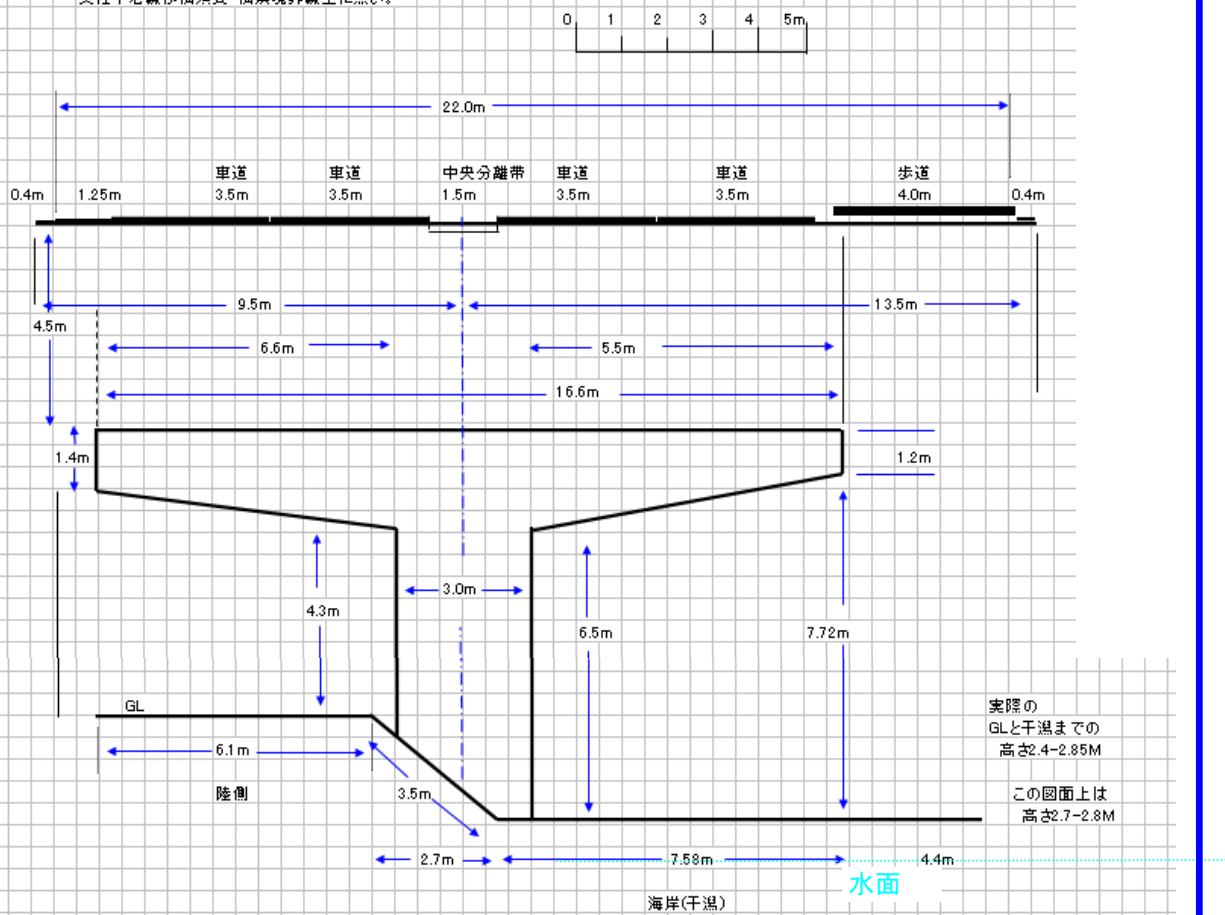
午前中、干潟へ日光が当たらない可能性有り。

国道357号 夏島 国道橋脚断面



疑問点 石垣の断面図が実際と異なる。
支柱3.0m本当?
支柱中心線が横須賀・横浜境界線上に無い。

25mも干潟側に道路がはみ出す。
横須賀市側は12mになって居る。

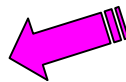


4.道路建設計画への私の立場と対応

1) 基本的な立場

1. 横浜市内で、唯一シギ・チドリが渡ってくる環境を残したい。
2. 道路建設には反対しない、但し、野島水路は避け**他のルート**へ

2) 道路建設計画への対応



これが原点

『記録にない鳥は保護できない！』

1. 道路用地のシギ・チドリへの影響を調査し予想する。
道路と、シギ・チドリとの位置関係を示すデータが欲しい。
[何時、どの場所に、どれくらいの数、どんな種類が居るのか]
2. データが見つからず、自分で調査することに

Ⅲ.調査方法

1.調査の方法とデータベース

1. 調査方法等(調査の仕方・対象の設定・調査用紙)の情報収集。
2. 出来れば、調査結果のデータベース化。
私のデータでなく、**誰でも見れるデータ**。

2.調査ルート図

調査順路 横須賀市側から野島公園に。



ジョンソンコン
トロールズ前
↓
鷹取川(追浜橋)
↓
夕照橋
↓
野島公園入り口
↓
野島水路南端
↓
自然海岸
↓
駐車場入り口
↓
野島公園展望台

定線センサス法の手法で、左右約50mにいる鳥をカウント。
自然海岸の沖側のみ100mぐらいの海上に居る鳥もカウントしている。

野島水路だけでなく、**野島公園と野島水路を一体の環境**として鳥類調査を実施している。

3.当初調査表

2009.2.21. 洞本厚夫

野島海岸調査データ入力用紙

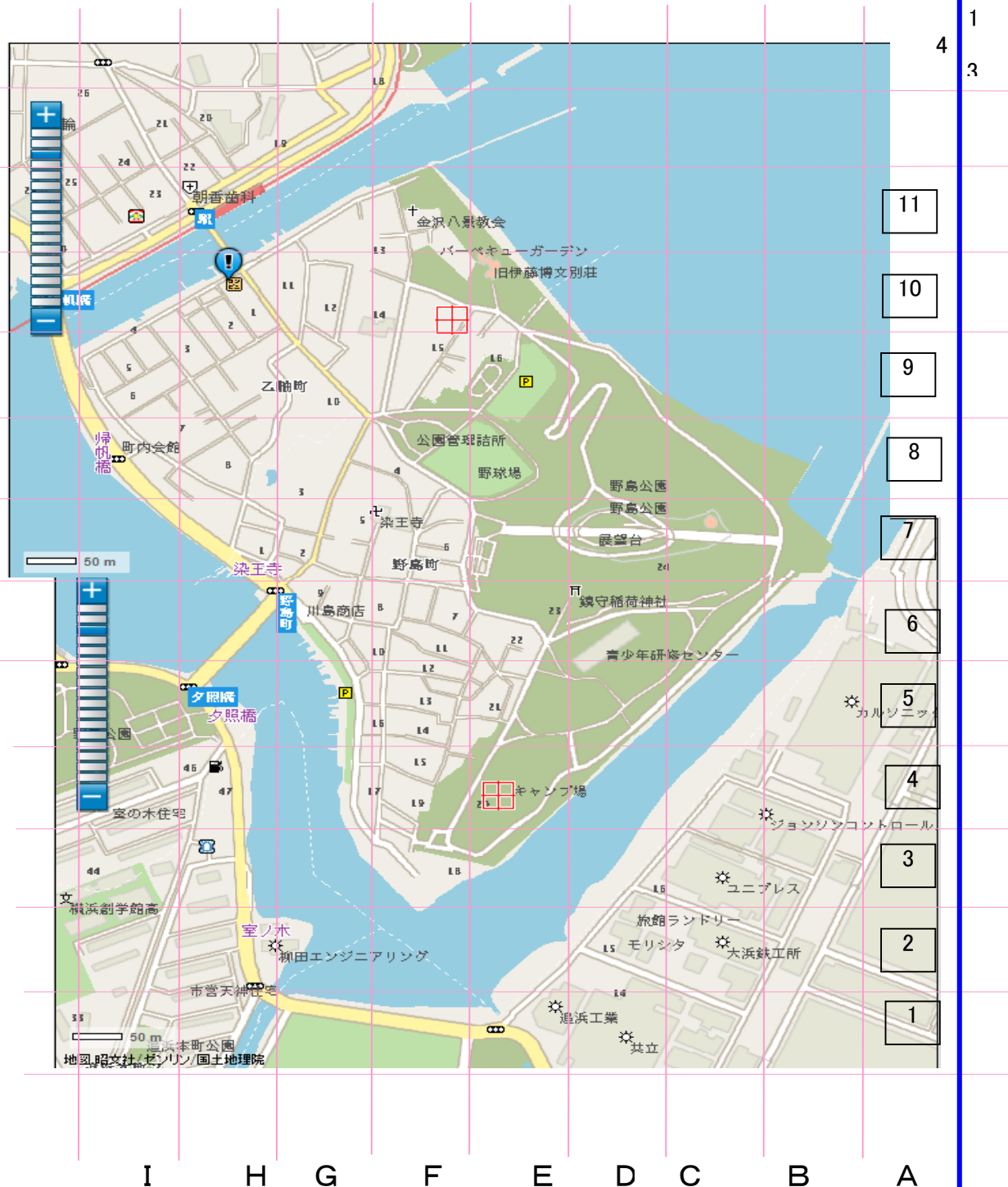
S=さえずりC=地鳴き

1/2

NO	種名	個体数	場所	時間	日付	備考
1	ウツ	2	35E	8:50	2/21	公
2	X26	1	"	"	"	公
3	ヒヨドリ	1	4E	8:52	"	公+27(1)
4	スズメ	2	4E	"	"	公
5	スズメ	2	4E	"	"	公休
6	ヤブイ	1	"	8:55	"	公推
7	X116	2	"	8:57	"	公推
8	ヒヨドリ	2	3E	9:00	"	公2人
9	ツグミ	2	3E	9:05	"	公
10	ツグミ	1	4E	9:06	"	公推
11	ヒヨドリ	7	4E	"	"	公
12	ツグミ	1	"	9:07	"	公
13	ハト	8	404	"	"	公
14	ハト	2	502	"	"	公
15	スズメ	1	603	"	"	公
16	ハト	1	"	9:12	"	公
17	ハト	1	"	"	"	公
18	ハト	1	"	"	"	公
19	ハト	1	60	"	"	公
20	ウツ	2	504	"	"	公
21	ハト	1	604	"	"	公
22	ヒヨドリ	1	7A2	"	"	公
23	ヒヨドリ	2	8A2	"	"	公
24	ハト	2	8C1	9:20	"	公
25	ヒヨドリ	19	8C1	"	"	公
26	スズメ	101	"	9:21	"	公
27	"	145	"	"	"	公
28	ツグミ	1	8B4	9:30	"	公
29	ツグミ	1	"	"	"	公
30	ツグミ	1	8B9A	"	"	公
31	ツグミ	2	10B	"	"	公
32	ツグミ	1	10B3	9:37	"	公
33	ウツ	2	"	"	"	公
34	ウツ	2	"	"	"	公
35	ツグミ	4	10E	9:43	"	公
36	ツグミ	28	404	10:30	"	公
37	ツグミ	6	"	"	"	公
38	ハト	4	7D	8:50	"	公

4.特徴は所番地 ?

100mメッシュ位置図



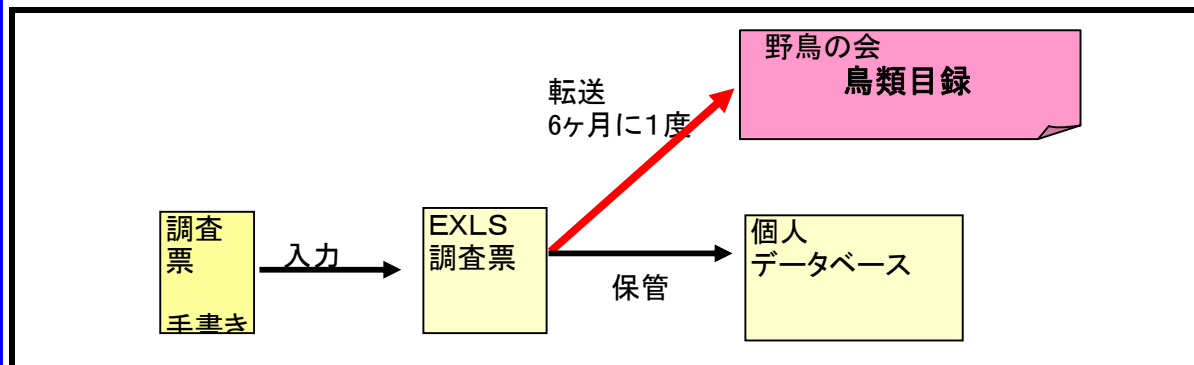
鳥の種類・羽数・場所を明確に出来る・・・データベース化のキー項目

調査地に100mのメッシュを掛け、このことにより

- 1.データベース化を容易にした。
- 2.場所毎の野鳥の分布を図にして表示できるようにした。

5.調査データの流れ

長期にわたる事業に対応するのは個人では無理。
データを私物化せず、『公』共化する。



注) 調査データ以外に、通常の鳥類目録にも協力しております。

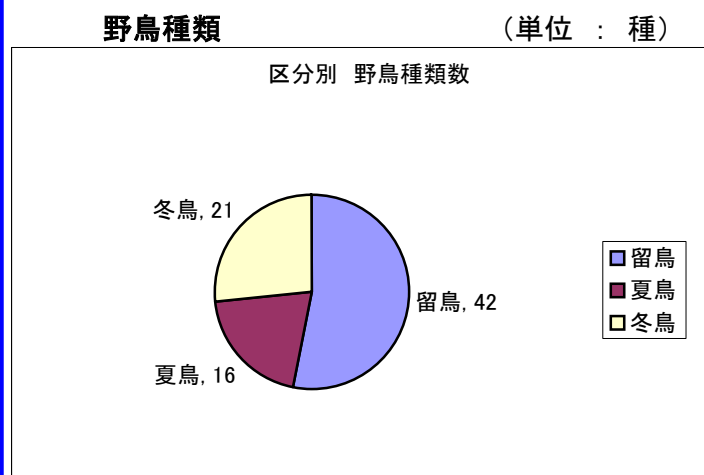
IV.調査結果及び日常観察結果

全体的なこと

調査回数 90回(2009.2～2012.10までのデータ 5013件)

大まかな状況

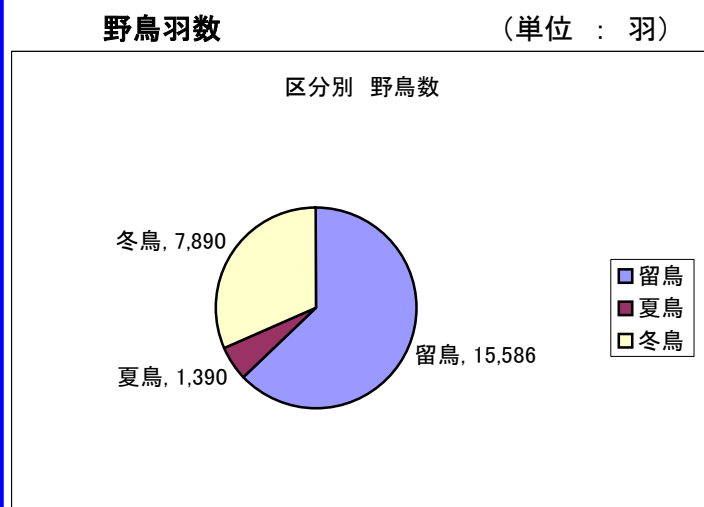
1.区分別 野鳥種類・羽数



区分別 野鳥種類・羽数		
区 分	種類数	累計
留 鳥	42種	15,586
夏 鳥	16種	1,390
冬 鳥	21種	7,890
3 合 計	79種	24,866

比率(種類)

留鳥 53%、夏鳥20%、冬鳥27%



比率(羽数)

留鳥 63%、夏鳥6%、冬鳥32%

別紙-2 参考資料 表

表-1 鳥類調査結果総括表(2009.2～2012.10まで90回)

	種 類		羽 数		
	種類数	種類比率	累計	1回当出現数	比率
留 鳥	42種	53.2	15,586	173.2	62.7
夏 鳥	16種	20.2	1,390	15.4	5.6
冬 鳥	21種	26.6	7,890	87.7	31.7
3 合 計	79種	100	24,866	276.3	100

2.場所別野鳥数

データベースとしての活用例(場所ソート)

調査した結果のデータを横須賀市夏島町側、横須賀市追浜高校側、横浜市野島公園という形でまとめる。

横須賀市夏島町側と横須賀市追浜高校側の野鳥は、ほとんどが海岸と海上でのカウント実績です。

野島公園は留鳥中心で自然海岸側の冬場のスズガモがメインと成る。

夏島町側(野島水路横須賀市側) カモ類とシギチドリがほとんど。

場 所	羽 数
横須賀市 夏島町側	7,224
横須賀市 追浜高校側	2,407
野島公園	15,235
合 計	24,866



3.野島の特徴種

表-2 「上位21種一覧表」

順位	種 名	羽 数	比 率
1	スズメ	3,305	14.3
2	ドバト	3,141	13.6
3	ヒドリガモ	2,956	12.8
4	スズガモ	2,698	11.7
5	ムクドリ	2,023	8.8
6	ヒヨドリ	1,300	5.6
7	ユリカモメ	852	3.7
8	オナガガモ	764	3.3
9	トビ	734	3.2
10	ハシブトガラス	709	3.1
11	カワウ	567	2.5
12	ハシボソガラス	560	2.4
13	キアシシギ	550	2.4
14	オオバン	488	2.1
15	カワラヒワ	468	2.0
16	メジロ	459	2.0
17	ハクセキレイ	383	1.7
18	シジュウカラ	349	1.5
19	カルガモ	315	1.4
20	メダイチドリ	253	1.1
21	ハマシギ	189	0.8
	21 種 計	23,063	100.0

調査で分ること

- 羽数÷90
1. 数えてみるとこんなに居たの
 - 1) 日常見えていた鳥の数
こんなに居たの。
スズメ、トビ、ムクドリ、カラス
 - 2) 意外性
ドバト(野良バト)、ヒヨドリ(渡り)が多い
 2. 野島の特徴種
 - 1) カモ類が意外と多い。
ヒドリガモ、スズガモ、オナガガモ
3種計 6418羽
 - 2) シギ・チが3種類入っている。
キアシシギ、メダイチドリ、ハマシギ。
3種計 992羽
 3. 時系列で見て分ったこと。
 - 大まかな渡りの時期
ヒヨドリの渡り
通常10羽→渡り時80～200羽
オオバン急増
- 256 2009年 3羽 → 2012年65羽

4. 日常観察と調査結果の差

調査の限界？・・調査と現実との差

調査で調べた数と日常観察の数が異なる。

「野島水路 年別 シギ・チドリ渡り最大数」 (単位:羽/日)

	9年	10年	11年	12年
調査結果(a)	110	125	123	161
日常観察(b)	142	180	154	191
差(b)-(a)	32	55	31	30

1. 調査開始から4年間、全ての年で日常観察の数値の方が多い。
2. 調査はあくまでも[フィールドの一断面]を表し、**全てを表さない**。
3. この差は、シギ・チドリの日々の変動から発生している。調査結果を日常観察で補正し、正しい姿を把握する必要がある。

日常観察によりシギ・チドリの最大数を把握しておくことは、役所の事前環境調査と比較する上で有効？。

5.神奈川県レッドデータ関係種及び出現数

意外と多いのです。

表-3 「神奈川県レッドデータ関係種及び出現数」

* はシギ・チドリ

鳥 種 名	出 現 数	レ ッ ド デ ー タ 区 分
ウミアイサ	1	非繁殖期・準絶滅危惧
ミサゴ	3	繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
オオタカ	1	繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類、非繁殖期・希少種
コチドリ	* 4	繁殖期・注目種
シロチドリ	* 9	繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類、非繁殖期・準絶滅危惧
メダイチドリ	* 223	非繁殖期・準絶滅危惧
キョウジョシギ	104	非繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
トウネン	* 0	非繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
ハマシギ	* 189	非繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
オバンギ	* 0	非繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
キアシシギ	* 458	非繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
イソシギ	* 30	繁殖期・希少種、非繁殖期・注目種
ソリハシシギ	* 31	非繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
チュウシャクシギ	* 4	非繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
コアシサシ	7	繁殖期・絶滅危惧Ⅰ類
ヒバリ	4	繁殖期・減少種
ツバメ	83	繁殖期・減少種
セグロセキレイ	8	繁殖期・減少種
ビンズイ	10	繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
モズ	16	繁殖期・減少種
アカハラ	4	繁殖期・減少種
ヤブサメ	0	繁殖期・準絶滅危惧
オオヨシキリ	1	繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
セッカ	1	繁殖期・減少種、非繁殖期・減少種
コサメビタキ	1	繁殖期・絶滅危惧Ⅰ類
アオジ	66	繁殖期・絶滅危惧Ⅱ類
カワラヒワ	406	繁殖期・減少種
27種	1,664	調査で24種、調査日以外で3種(出現数 0)を確認

区分別集計

	種 数	羽 数	種 比 率	羽 数 比 率
留 鳥	10種	483	37.0	29.0
夏 鳥	15種	1,114	55.6	66.9
冬 鳥	2種	67	7.4	4.0
3 合 計	27種	1,664	100.0	100.0

6.野島水路 年別シギ・チドリ渡り数

表-4 「野島水路 年別 シギ・チドリ渡り数」

(単位 羽)

	年								
	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
ハマシギ	40	40	20	20	20	34	73	35	16
メダイチドリ	20	30	29	32	24	38	56	56	73
キアシシギ	20	15	30	20	15	39	40	40	42
コチドリ	1	3	1	3	5		3	2	
シロチドリ		2		10	1	5		0	
チュウシャクシギ	1	3		1	1		1	3	
キョウジョシギ		1				22	1	15	58
ソリハシシギ		2		1	1	3	4	3	2
トオネン							1	1	
オバシギ						1	1		
計	82	96	80	87	67	142	180	154	191

・2004年から野島水路のシギ・チドリの渡りの羽数推移。この資料は、デイリーの観察結果から作成した。各年で最大数を記録した日の羽数。

・2012年のみ6月5日までの実績。

キアシシギは渡りの数が安定している。ハマシギとメダイチドリは9年以降大きく変動している。キョウジョシギは9年から急増しているように見えるが、以前から来ていた、可能性有り、9年以前は、観察漏れと思われる。

数が少ないとはいえ、毎年野島水路を頼りにして渡ってきてくれるシギ・チドリ達に、この干潟を残してやりたいと願っています。

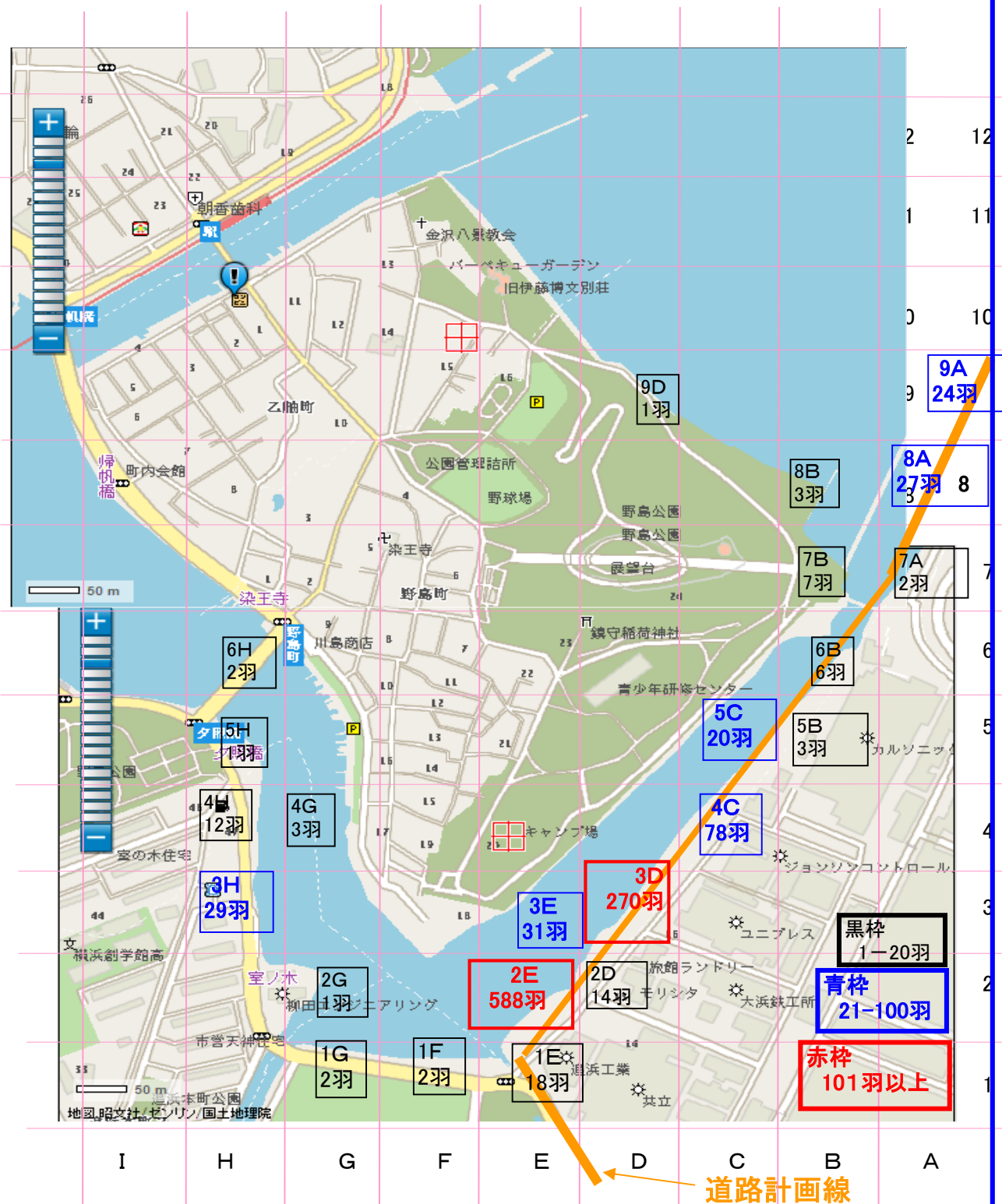
7.シギ・チドリの採食・休憩時の場所及び分布形態

表-6 「シギ・チドリ採食・休憩場所」

	食		憩	
	採 場 所	形 態	場 所	形 態
キアシシギ	野島全域	分散	追浜工業前干潟	グループ
メリケンキアシシギ	〃	〃	〃	他種とグループ化
ソリハシシギ	〃	〃	〃	〃
メダイチドリ	夏島地区の干潟	グループ	野島より飛び去る	グループ
ハマシギ	〃	〃	〃	他種とグループ化
キョウジョシギ	夏島地区の干潟・日産護	〃	夏島地区の干潟・日産護	グループ・他種とグループ化
シロチドリ	夏島地区の干潟	グループ	野島より飛び去る	グループ
コチドリ	夏島地区の干潟	グループ	〃	グループ
チュウシャクシギ	野島全域	分散	野島全域	単独
トウネン	夏島地区の干潟	グループ	不明	不明
オバシギ	夏島地区の干潟	〃	追浜工業前干潟	他種とグループ化

8. シギ・チドリ分布図(道路との関係)

各メッシュ毎のシギ・チドリの数を地図上に落としてみた結果。



この図の示していること

1. 横須賀市側干潟にシギ・チドリが集中。→横須賀市側の干潟がとても重要。
2. 道路計画はシギ・チドリの採食・休憩場所を脅かす。
3. キョウジョシギの採食・休憩場所上に道路が出来る。

9.調査の有効性

野島で4年間調査を実施した結果、道路計画の事前環境調査を照査・点検するデータは揃ったと思われる。